

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 1階 さくら		
所在地	〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2670600424-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年12月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームでは、利用者との日々の生活の中で、その人らしさを尊重しながら安全で豊かな生活が送れるようにとレクリエーションの内容に力を入れています。レクリエーションを通して利用者とコミュニケーションを図り、利用者にとってのニーズや支援における改善点を新たに発見することで、よりその人らしい支援につなげる事を目的としています。レクリエーションでは、壁画の作成を一緒に行い、折り紙や切り絵を楽しみながら手先を動かしたり、時には外出してお花見や、紅葉狩り、お芋ほりにと外へ出て季節を感じながらの会話を楽しんでいます。また、ボランティアの方に音楽コンサートやマジックショーを披露していただいたり、生け花の先生に来ていただき生花の名前を覚えてもらいながら、利用者の感性で一つ一つ作り上げていきます。そして日常においても、できる範囲でお料理や盛り付けを一緒に行い、食器拭きなどの片付けもお願いしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、束縛のない暮らしやレクリエーションの中にその人らしく生き生き暮らせること等の思いを込め、理念が掲げられています。利用者ができることを大切に、楽しみ事ややりがいのある暮らしを支援するために、職員間は連携良く取り組まれています。事業所でのコンサート等の行事に近隣の方に来てもらい一緒に楽しんだり、音楽療法や生け花などの地域のボランティアの来訪が多く、利用者の楽しみとなっています。また、外出の機会を大切に、ドライブで季節の花を見に行ったり、家族も一緒に芋掘り等の行事や個別支援で絵の展覧会や植物園に出かけるなどの支援を行っています。更に、看取りの支援の勉強会を行い、医師や家族、看護師等と共に話し合いを重ね、利用者や家族の思いに寄り添いながら終末期支援に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生き生きとした暮らしをモットーに理念に沿った支援を心がけています。地域との関わりを大切にし行事等にも参加している。	開設時に束縛のない暮らしやその人らしく生き生き暮らせること等の思いを込め、理念が掲げられています。職員会議には、法人代表が支援の方向性がぶれないよう導きながらも、職員は意見を出し合い創意工夫を重ね、理念に沿った支援となるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、秋祭りには献酒をしている。地藏盆は提灯に絵を描いたり俳句を書き飾っていただいている。またお添えもしている。湯立祭での踊りを見に行くなど地域の人たちとの交流を深めている。近隣の方と日常的に挨拶している。	事業所は住宅街の中にあり、近隣の方との近所付き合いができており、野菜や花を頂いたり、事業所でのコンサート等の行事に来てもらい一緒に楽しむなどの交流があります。音楽療法や生け花などの地域のボランティアの来訪が多く、利用者の楽しみとなっています。また、地域の祭りや地藏盆等に積極的に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの方に声をかけてもらい、地域の行事等に参加させてもらっている。小学校で行う福祉の授業にボランティアとして参加したり認知症サポートで寸劇を手伝ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の方が消火訓練時参加して下さっている。相談事等に適切な助言をいただき参考にしている。	会議は、利用者や家族代表、社会福祉協議会役員、福祉委員等の参加を得て、2か月に1回開催しています。多くの写真が載っている便りを見てもらいながら行事や運営状況の報告を行い、参加者と意見交換を行っています。地域の事や防災について、運営規程の変更内容等を議題に挙げ話し合い、運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の支援課が若年性認知症の方の入所希望の支援をされていて空き状況を伝えたりしている。家族を連れて見学にも来ている。	運営推進会議の議事録は郵送し、行政に運営状況を伝えていきます。運営状況を知ってもらう事で、事業所の空き状況の問い合わせが区からあり、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人らしさを大切にするためグループホームでは身体拘束のない支援をしたいと考えている。玄関に施錠をしない方針は継続している。しかし、転倒や徘徊による事故を防ぐため予防的な対策や見守り等を行っている。	身体拘束に繋がる事例等を職員会議の際に職員に伝え、職員の対応が不適切であれば、その都度代表が注意しています。玄関やエレベーターには鍵をかけず、センサーや見守りで利用者が外に行きたい様子があれば、寄り添い一緒に出かけられるように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内及び外部での虐待防止の研修に取り組んでいる。また職員のストレスが虐待につながる様子をカンファレンスを通して、支援が円滑に進む事を目的として職員間で話し合い、結果としてストレスが軽減されるように努めている。		

グループホーム カスタネット（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の事例や現在利用されている方の状況を年に1回程度勉強している。権利擁護のテキストから学ぶなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の変更が生じた場合には改めて利用者や家族に対して説明を行い、理解を・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱等を設置しているが殆ど利用がない。広報誌や何かの折に意見・要望を言ってくださるように伝えている。看取りやお葬式を営んだことを広報誌で伝えと、他の家族が希望したいと相談を受けたりしている。	日々利用者の意見を聞いたり、家族の面会時には事業所の広報誌を見てもらいながら様子を伝え意見をもらうように取り組んでいます。出された意見や要望はその場で応えたり、会議で話し合い連絡ノートを通じて職員間で情報を共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で気付いた点や改善すべき点は、職員間で利用している連絡ノートやカンファレンスを通して情報を共有できている。	代表や管理者は日々職員が言いやすい環境を作り、連絡ノートに書いたり会議の際にも意見や提案をする機会があります。出された意見はできる限りサービスに活かしています。2年に1度位はヒアリングを行い、個別に意見を聞く機会を持っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が勤務しているので把握をしている。人は必ず良いところがあるので誉めたり、励ましたりその人なりを見ている。話しやすい環境づくりを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では特に重要な項目においては、同じ内容であっても毎年研修するようにしている。外部からの研修に対しても職員に声をかけ、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHオリンピックに参加したり職員交換研修等を通じて他のGHとの交流を行っている。毎年、新人研修等を皆で課題を決めて様々な研修に参加するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況を把握するため、ご本人や家族、ケアマネージャーの方に情報収集をしっかりと行い、入居後の不安を軽減し、安心して生活してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活や、職員の関わりを説明している。どのようなことを望んでいるのか。どのような不安があるのか聞いている。相談をしやすい環境を提供しコミュニケーションをとる事で信頼関係を気付くように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご本人、家族からお話を聞き、対応できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心身のレベル等も違うので、レクのとき、雑談のとき、お手伝いのとき、共に生活支援において関係性が築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には自分の家だと思って来て下さいと伝えている。情報や状況を伝え生活ぶりを把握していただいている。時には電話連絡も行い共通の認識をもってもらっている。行事の参加の呼びかけも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と在宅に歩いて帰られる方、スタッフと在宅に帰る方、以前の施設の友人が面会に来られている方。住んでいた家の前まで連れて行くことも。お墓参りをしたいということで一緒に行った事も。	以前からの知人が来訪したり、友人との外食ができるように支援しています。住んでいた所や墓参りに出かける等、個別支援も行っています。また、年賀状等のやり取りができるよう支援し、馴染みの人との関係の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間関係を大切にしている。気の合う同士や会話が可能な方同士。レクの時の同士など。トラブルがあった場合は少し距離をおくようにしている。孤立しないように気をつけている。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡で退所された場合、お見舞いに行ったり、家族から挨拶の葉書やお手紙が届きますが、いつの間にか途絶えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の得意とすること、出来る事を把握、見極めを行い、興味を引くような言葉掛けや資料などを提案し支援している。困難な方も側で共に雰囲気を楽しんでいただいている。	入居時には生活歴や好みなどを細かく聴き、アセスメントを行い意向の把握に繋げています。入居後の日々の関わりの中で、利用者から意向を聴いたり言動や表情を汲み取るように努め、記録に残して職員間で共有し、会議で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る事、出来ない事があるが、なるべく在宅生活延長の支援をする気持ちで行っている。生活歴の把握は大事である。趣味をサポートしたり得意なことは支援するなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歌の好きな方、散歩に行きたい方、お手伝いをしたい方、それぞれの要望や、普段の様子が把握できている。心身の状態は健康管理表で把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく暮らす為に、カンファレンスで話し合い、家族にも希望や要望をお聞きしている。お任せしますと言われる家族も多く、情報・近況を伝えている。	利用者の意向を基にサービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。毎月カンファレンスで利用者一人ひとりについて話し合い、3か月毎にモニタリングを行い評価しています。家族やかかりつけ医、看護師等の意見を聞き、会議で話し合い介護計画の見直しを行っています。	介護計画の見直しの際にサービス担当者会議を行うにあたり、再アセスメントを行い利用者の変化を捉えられるようにされてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録から気づきが分かり、また他の記録からも情報の共有が出来ている。カンファで話し合いを行って生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の対応としてリハビリの先生に来ていただきサポートしてもらったり、ボランティアの方の申し出を積極的に受けて音楽会などを開催してもらっている。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の協力は大きく、心豊かなひとときを過ごしている。診療所、喫茶店、スーパー地域包括支援センターなど地域の皆様に支えられながら暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師はどうしますかと家族の意向を聞いている。その中で今までの関わりの医師にも受診をしている家族もいる。	入居時にかかりつけ医を継続することも可能であることを説明し、かかりつけ医を決めています。専門医等への受診は事業所で支援し、週に1回協力医の往診を受け、訪問看護を受けています。緊急時には夜間でも協力医に相談できる体制を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師によるバイタルで、利用者の細かい情報も伝えている。食事量・水分量から体重の増減や排便に至るまで、普段の様子も把握されており、主治医に様子を伝えて下さるから安心出来ている。何かあれば家族に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所の母体の病院があるので、家族の希望を聞き、入院や受診が来ている。退院も早めにとったり、入院時の様子も主治医に伝わっており横の連携がスムーズである。退院されても情報が共有出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去6回の看取りをしている。家族・主治医・施設の3者で話し合いを行う。主治医が早めに家族と話したいと言われる。家族のほうから看取りをと言われることも多い。	入居時に看取りについての指針を説明し、家族に意向を確認し同意を得ています。利用者の状況が変わった時には、再度意向の確認を行い、医師と家族と事業所で話し合いを持ち、方針を共有し支援しています。訪問看護師による看取りの支援についての勉強会を行い、職員は前向きに取り組んでいます。看取りの支援の経験もあり、事業所で葬儀の支援まで行ったこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、すぐに対応出来る様に、普段から話し合い、バイタルの実施・クーリング・様子観察等を行い、診療所の方に的確な情報を伝えられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を行い、地域の方の協力を得ている。近隣の職員が多く、すぐに駆けつけられるような体制が整っている。	年に2回避難訓練を実施し、火元の設定を変えながら初期消火や消火器の使い方、避難誘導などについての訓練を行っています。運営推進会議で議題にしたり、近隣の方の参加を得て訓練を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として尊重し決して人格を否定するような態度や言葉掛けをしないように指導を受けている。自分がされて嫌なことはしない言わない。	入職時に言葉遣い等の接遇について研修しています。職員会議では、利用者や家族の立場に立って、言葉遣い等に留意しながら対応するよう伝えていきます。不適切な対応があれば、その都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人々に声をかけ、話の中で希望や要望を考えながらその方に合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	案外と職員の都合に合わせているのではないだろうかと反省することもある。その一方で、その方のペースに合わせて支援も行っている。声掛けは大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に似合うカットや毛染めをして毎日、櫛でとき小綺麗に、洋服も汚れていたら着替え、時には薄化粧やマニキュアも施したり清潔感に心がけている。よく似合うとか綺麗、可愛いと声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備、盛り付け、片付けに至るまで、利用者と共に行っている。義歯のない方には細かく切ったり、お粥にしたり、トロミアップを使っている。また畑で採れた新鮮な野菜や季節の物をメニューで出している。	毎日担当者が献立を考え、下ごしらえ等の利用者ができる事に携わってもらい、食事作りをしています。職員も同じ食卓に着き、介助したり会話をしながら和やかな食事の時間となっています。時には外食に出かけ、レストランで好きなものを選んでもらったり、出前を取ることもあります。季節の行事には巻きずしやおはぎを利用者と一緒に作り、楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を記録、計算して少ないと感じるときは翌日意識して水分摂取していただく。体重測定も月一回行い食事量が適量であるか気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方には歯科に往診に来てもらっている。また、毎食後の歯磨きを必ず行い、その為に歯間ブラシを使ったりと、より綺麗に仕上っている。見守りにて本人にしている。		

グループホーム カスタネット (1階さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康管理表等排便の管理をして便秘薬を服用してもらったり、排泄記録をつけることで、利用者の排泄パターンが分かりやすくトイレへの誘導も、タイミングをみて行う事ができる。	排泄の支援の必要な利用者には、チェック表を付けて個々の排泄パターンを把握し、仕草を観て声をかけたりトイレに誘導しています。カンファレンスで個々に合った支援の方法を考え、トイレで排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生野菜を多く食卓に出している。水分摂取も小まめに摂って頂いている。散歩に出かけたり、体操を毎日行っている。それでも便秘症の方も多くお薬で対応している。2日排便がなければ3日目に便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の調子に合わせ、時間帯なども本人の希望に合わせながら気持ちよく入浴してもらえるように心がけている。夜間の入浴も行っている。	日曜日以外の毎日入浴の準備を行い、利用者は週に3回程度入浴できるよう支援しています。希望に応じて毎日や夜間の入浴にも対応し、シャワー浴や足浴を行うこともあります。入浴剤を利用したり、ゆず湯等の季節湯を行い、ゆっくり会話を楽しみながら入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座って居眠りする方や車椅子の方は、お昼寝をしていただいたり、クッションを使用して安楽な姿勢を支援している。また寝返りの出来ない方には、体位変換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、どのような薬を服用しているか、副作用はあるかなどお薬リストで把握している。また主治医から薬の変更等を教えていただいている。薬剤師から服薬の勉強会を行ったりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手遊びや歌、体を使ってのレクリエーションをしている。また、洗濯物たたみや食器拭き、盛り付けなどを手伝ってもらっている。それに加え季節の貼り絵や習字など行事の準備のお手伝いもお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の風景や行事を見に出かけたり、地域の行事に参加するなどしている。また絵の展覧会、コンサートなどにも出かけている。よくドライブにも出かけている。	気候の良い時は散歩に出かけたり、ドライブで季節の花を見に行く等、外出の機会を大切にしています。家族と一緒に芋掘り等の行事や個別に絵の展覧会や植物園に出かけるなどの支援を行っています。ホームの庭からも四季を感じられ、庭に出て外気浴も楽しまれています。	



グループホーム カスタネット（1階さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、買い物と一緒にいたり、買ったものを見ながら会話を楽しんでいる。アンパンが大好きで、月1回程度の買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと希望されたら、そのように取り次いでいる。家族に年賀ハガキを出すように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機を2台設置しているが、室温に合わせて窓を開けたり、お香をたいたりしている。壁画でも季節を感じ取ってもらっている。夏はグリーンカーテンやすだれなどで日差し除けをしている。	玄関先にプランターを置いたり、リビングの壁にはちぎり絵で季節感が感じられるようにしています。リビング以外にも廊下にソファを置き、少人数でも過ごせるように配慮しています。毎日丁寧に掃除を行い清潔感があり、空気清浄機や加湿器を設置し、居心地良く過ごせるよう取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、居室にはテーブルや椅子などを置き使用していただいている。天気の良い日は外でくつろげるように椅子とテーブルも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して家で使用していた物や思い出の品などを部屋に飾っている。御本人が描いた絵や習字、写真、生け花など。お仏壇をお部屋に置いている方もいる。ご自分で生けた生け花、作品等も飾っている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え、家族と配置を決めています。自宅から机や椅子、テレビ、鏡、仏壇等が持ち込まれ、生活感があります。また、絵や自身で作られた作品を飾ったり、花を置き水やりをしている方もいます。現在は全室洋室ですが、畳を敷き布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	遠くからでも分かるようにトイレの戸を変えている「あそこ」とトイレへ。表札を付け自分の部屋だと理解。日めくりをめぐって貰ったり、手作りカレンダーやホワイトボードを見ることが分かるように工夫をしている。		